

令和7年度第1回区民集会運営協議会

令和7年7月17日（木）

第1・第2委員会室（区役所8階）

1 正副座長について

2 区民集会活動概要について

3 今期の実施テーマについて

テーマ：「これからの地域コミュニティの形成と継承」

（1）今期のテーマに関する経過説明

（2）地域振興部の取組み紹介

【コミュニティ総務課 赤海課長】

（3）意見交換と今後について

4 その他

【資料】

- 資料1 令和7年度第1回区民集会運営協議会名簿
- 資料2 令和7年度第1回区民集会運営協議会座席表
- 資料3 区民集会活動概要
- 資料4 区民集会運営協議会 現テーマに関するこれまでの経過
- 資料5－1 要望書（R5区民集会テーマ選定 要望事項）
- 資料5－2 要望書（R6区民集会運営協議会としてアンケート実施の要望）
- 資料5－3 区内地域格差・各町会の特性を思索した「地域コミュニティの形成と継承」を思考する特別委員会の設置を求める陳情
- 資料5－4 令和7年1月23日企画総務委員会議事録（陳情審査部分抜粋）
- 資料6 地域振興部コミュニティ総務課資料

参考資料 区民集会運営協議会設置要綱

委嘱状

令和7年度第1回区民集会運営協議会名簿

連合町会長

役 職 名	氏 名
麴町出張所地区連合町会長	横山 義文
富士見地区町会連合会長	久保寺 健郎
神保町地区町会連合会長	望月 正
神田公園地区連合町会長	堀井 市朗（★）
万世橋地区町会連合会長	佐竹 信敬
神田駅東連合町会長	篠田 健治
岩本町東神田町会連合会長	小澤 正治
秋葉原東部町会連合会長	小林 一治

★…今年度新任された連合町会長

区議会議員

役 職 名	氏 名
区議会議長	秋谷 こうき
区議会副議長	大坂 隆洋
議会運営委員会委員長	小野 なりこ
議会運営委員会副委員長	小林 たかや
議会運営委員会委員	小枝 すみ子
議会運営委員会委員	米田 かずや
議会運営委員会委員	牛尾 こうじろう
議会運営委員会委員	岩佐 りょう子
議会運営委員会委員	はやお 恭一
議会運営委員会委員	春山 あすか
議会運営委員会委員	田中 えりか
議会運営委員会委員	桜井 ただし
議会運営委員会委員	おのでら 亮

理事者

役 職 名	氏 名
地域振興部長	印出井 一美
コミュニティ総務課長	赤海 研亮
コミュニティ政策担当課長	清水 学
麴町出張所長	富澤 幸代
富士見出張所長	原川 周大

事務局

役 職 名	氏 名
区議会事務局長（次長事務取扱）	石綿 賢一郎
区議会事務局 調査担当係長	山本 正洋
区議会事務局 庶務係	濱本 美那

令和7年度第1回区民集会運営協議会座席表

区民集会運営協議会
資料2
令和7年7月17日

地域振興
部長

おのでら
議員

牛尾
議員

富士見
久保寺会長

コミュニティ
総務課長

桜井
議員

米田
議員

神保町
望月会長

コミュニティ
政策担当
課長

田中
議員

小枝
議員

神田公園
堀井会長

麴町
出張所長

春山
議員

小林
議員

万世橋
佐竹会長

富士見
出張所長

はやお
議員

小野
議員

神田駅東
篠田会長

岩佐
議員

大坂
副議長

座長
秋谷議長

副座長
麴町
横山会長

秋葉原東部
小林会長

岩本町東神田
小澤会長

区議会事務局
局長（次長
事務取扱）

区議会事務局
（操作卓）

出入口

出入口

区民集会活動概要

(1) 区民集会の目的

区政を取り巻く状況が刻々と変化する中で、区民自らが歴史と伝統に培われた千代田区を守り発展させていくため、区民と区議会が一体となって地域の抱える諸課題に対して、主体的に取り組み議論する場として、昭和 58 年度から「区民集会」を開催している。

この区民集会の開催にあたり、企画及び運営等に関する協議の場として、連合町会長 8 名及び区議会議員で構成する「区民集会運営協議会」を設置している。

(2) 近年の開催状況

令和 3 年度は、桜井ただし議長を座長としてテーマの検討を行った結果、「お濠の浄化について」取り組むことを決定。12 月にはお濠の現状等を把握するための勉強会を開催した。また、現在の水質浄化に向けた取組み等を踏まえ、区に対して予算要望書を提出することとした。

令和 4 年度に入り、7 月には東京都都市整備局及び下水道局より講師を招いて勉強会を開催。10 月には 4 年ぶりとなる区民集会を開催し、中央大学研究開発機構教授の山田正氏による講演会を実施。水質改善の仕組みや様々な取組み事例について知識を深めた。また、この 1 年間で得た知見をもとに、関係機関に対して水質改善と魅力ある水辺環境の再生について要望書を提出した。

令和 5 年度には秋谷こうき新議長を座長としてテーマを検討した結果、「これからの地域コミュニティの形成と継承」に取り組んでいくことを決定。1 月には区の取組みや外部講師による事例研究などの勉強会を行った。

令和 6 年度は、区民集会のテーマの実現に向けて、今後の進め方等を確認した。今後は、区に住む人々が互いに協力して支え合い、地域を発展させていけるようその仕組みづくりの検討を進めていく。

(3) 区民集会実施状況

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
昭和 58 年度	11 月 1 日(火) 11 月 2 日(水)	講演会方式 (神田保健所 214 名、一番町児童館 157 名) ○特別区制度を考える千代田区民集会 東京大学教授 大森 彌

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
昭和 59 年度	11 月 6 日(火) 11 月 7 日(水)	パネルディスカッション方式 (麴町小学校 255 名、神田小学校 332 名) ○基本計画の見直しとまちづくりについて
昭和 60 年度	11 月 6 日(水) 11 月 7 日(木)	パネルディスカッション方式 (麴町小学校 286 名、錦華小学校 478 名) ○まちづくりについて言いたいこと” なんでも” あなたの意見で明日の千代田を！
昭和 61 年度	11 月 6 日(木) 11 月 7 日(金)	講演会方式 (麴町小学校 354 名、神田小学校 433 名) ○住むまち、住めるまち千代田を目指して！ あなたが主役、千代田のまちづくり！ 東京工業大学教授 熊田 禎宣
昭和 62 年度	11 月 17 日(火) 11 月 18 日(水)	パネルディスカッション方式 (麴町小学校 254 名、佐久間小学校 434 名) ○私たちが主役、千代田の街づくり
昭和 63 年度	11 月 8 日(火) 11 月 9 日(水)	パネルディスカッション方式 (麴町小学校 309 名、神田小学校 376 名) ○私たちが主役、千代田の街づくり
平成元年度	11 月 11 日(土)	寸劇と講談 (区立総合体育館 735 名) ○千代田に住む
平成 3 年度	11 月 13 日(水) ～14 日(木)	町会長を対象としたセミナー (西熱海ホテル 155 名) ○実践！千代田の街づくり
平成 4 年度	10 月 1 日(木)	区民総決起大会 (九段会館 約 800 名) ○大会スローガン いつまでも住みつづけられる街を！ (相続税軽減を求める千代田区民総決起大会)
平成 5 年度	10 月 7 日(木)	区民総決起大会 (千代田区公会堂 約 800 名、デモ行進 約 300 名) ○大会スローガン 都心から生活者を追い出すな！ (相続税・固定資産税大幅減税千代田区民総決起大会)

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
平成 6 年度	11 月 9 日(水)	区民総決起大会（一橋中学校 約 600 名） ○大会スローガン 住み続けます このまちが好きだから （固定資産税・相続税大幅減税千代田区民総決起大会）
平成 7 年度	11 月 6 日(月)	区民総決起大会 （千代田区公会堂 約 650 名、デモ行進 約 450 名） ○大会スローガン 千代田で住みたい！わたしのふるさと （固定資産税・相続税大幅減税千代田区民総決起大会）
平成 8 年度	11 月 13 日(土)	都心 4 区区民大会（九段会館 約 1,500 名） ○大会スローガン いつまでも住み続けられるまちにしよう （固定資産税・相続税の大幅軽減を求める都心 4 区区民大会）
平成 9 年度	11 月 4 日(火)	都心 5 区区民大会（日比谷公会堂 2,107 名） ○大会スローガン いつまでも住み働き続けられるまちにしよう （固定資産税・相続税の大幅軽減を求める都心 5 区区民大会）
平成 10 年度	7 月 28 日(火)	区民大会（秋葉原駅前広場 約 800 名） ○大会スローガン 夢のある 21 世紀の秋葉原を Next AKIBA. （21 世紀のアキバをつくる千代田区民大会）
	10 月 28 日(水)	都心 6 区区民大会（九段会館 約 1,200 名） ○大会スローガン このまちに住み働き続けたい！ みんなの願いです （固定資産税・相続税の大幅軽減を求める都心 6 区区民大会）
平成 11 年度	11 月 2 日(火)	都心 6 区区民大会（九段会館 約 1,130 名） ○大会スローガン このまちの未来と子どもたちのために 実現しようみんなの願い！ （固定資産税・相続税の大幅軽減を求める都心 6 区区民大会）

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
平成 12 年度	10 月 20 日(金)	都心 6 区区民大会（九段会館 約 945 名） ○大会スローガン 21 世紀も住み働き続けたい私たちのまちに 実現しようみんなの願い （固定資産税・相続税の大幅軽減を求める都 心 6 区区民大会）
平成 13 年度	10 月 5 日(金) 10 月 23 日(火)	区民会議、第 4 委員会室 区民会議、第 4 委員会室 ※千代田区民会議として発足し、要請行動を 行った。その開催日を実施日として掲載。 ○連合町会、町会、業種別団体等の代表者によ る署名及び陳情書の提出（固定資産税の大 幅減税を求める千代田区民会議） 「固定資産税の大幅減税陳情書」の提出 11 月 2 日（金）総務大臣、財務大臣 11 月 5 日（月）東京都知事、東京都議会議長 11 月 14 日（水）政府税制調査会会長
平成 14 年度	9 月 2 日(月)	固定資産税・相続税の大幅減税を求める千代 田区民会議セミナー （千代田区公会堂 約 350 名） 「固定資産税・相続税の大幅減税陳情書」の 提出 10 月 28 日（月）財務大臣、政府税制調査会会長 10 月 29 日（火）東京都知事、東京都議会議長 10 月 31 日（木）総務大臣
平成 15 年度		※本年度より、固定資産税・相続税の大幅減税 を求める要請行動については、執行機関が行っ ていくことになり、活動方針について確認し た。その日を実施日として掲載。 <u>○連合町会、町会、業種別団体等の代表者によ る署名及び陳情書の提出</u> <u>「固定資産税・相続税の大幅減税陳情書」の提出</u> 12 月 17 日（水）財務大臣 12 月 19 日（金）総務大臣、政府税制調査会会長 12 月 24 日（水）東京都知事、東京都議会議長

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
平成 16 年度		※固定資産税・相続税の大幅減税を求める要請行動は、執行機関が主体となり、区議会や町会とともに要請行動を行った。 <u>○連合町会、町会、業種別団体等の代表者による署名及び陳情書の提出</u> <u>「固定資産税・相続税の大幅減税陳情書」の提出</u> 11 月 18 日（木）東京都知事、東京都議会議長 12 月 10 日（金）総務大臣、政府税制調査会会長 12 月 13 日（月）財務大臣
平成 17 年度		<u>○各連合町会会長の連名による要望書の提出</u> <u>「三位一体の改革による住民税フラット化に関する要望書」の提出</u> 12 月 13 日（火） 内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、経済財政政策担当大臣、衆議院議長、参議院議長
平成 18 年度	9 月 11 日(月)	○千代田マンション管理交流会との意見交換会（第 4 委員会室 21 名） ○マンション住民との共生 「マンション住民からみた地域との交流の実態、事例等、マンション住民の意識など」
	12 月 15 日(月)	○千代田マンション管理交流会と議会運営委員との懇談会（第 4 委員会室 27 名） ○マンション居住者と地域との関わりや、マンション居住者と行政の関わり方 ①既存のコミュニティ組織（町会）とマンション居住者との共生のあり方 ②マンション居住者への区役所・出張所の支援のあり方
平成 19 年度	—	—
平成 20 年度	10 月 20 日(月)	区民集会運営協議会（第 1 委員会室） ○今後の区民集会について
平成 21 年度	11 月 20 日(金)	区民講演会：皇居周辺の景観と観光を考える（7 階議場 約 150 名） ○テーマ「皇居の自然と区民の暮らし」 レストランジャーナリスト 犬養 裕美子 明治大学大学院教授 青山 侑

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
平成 21 年度	2 月 23 日(火)	区民講演会：皇居周辺の景観と観光を考える (第 1、第 2 委員会室 85 名) ○テーマ「江戸の見附で千代田を見つける」 一級建築士 木下 栄三
平成 22 年度	5 月 18 日(火)	歩いて知ろう！江戸城ウォーク（皇居・東御苑 周辺 約 200 名） ○専門のガイドによる皇居東御苑等のツアー
	8 月 25 日(水)	宮中雅楽と観光の夕べ（和田倉噴水公園レスト ラン 約 100 名） ○区内の観光関係団体と皇居やその周辺の景 観について、観光の視点から考えるための意見 交換会。宮内庁による雅楽の演奏
	10 月 14 日(木)	千代田の景観と観光を考えるシンポジウム (明治大学駿河台キャンパス 約 400 名) 講演会・パネルディスカッション ○テーマ「江戸時代の武士と庶民、 そして現代社会」 パネルディスカッション ○テーマ「江戸時代から現代、そして未来へ ー千代田の魅力を再発見ー」
	10 月 30 日(土)	江戸城ウォーク、オープンバスから眺める千代 田の史跡ツアー ※荒天により中止
	11 月 6 日(土)・ 13 日(土)	オープンバスから眺める千代田の史跡ツアー (皇居周辺 各回約 200 名) ○1 日 6 便運行、計 2 日間開催
平成 23 年度	12 月 16 日(金)	区民集会運営協議会（第 1 委員会室） ○今後の予定について
平成 24 年度	10 月 22 日(月)	講演会方式（共立講堂 約 400 名） ○テーマ「東京の震災を考える ーそのとき千代田は？わがまちは？ー」 明治大学政治経済学研究科特任教授 中林 一樹

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
平成 25 年度	10 月 28 日(月)	講演会方式（7 階議場 約 120 名） ○テーマ「災害につよいコミュニティづくり ～マンションと地域コミュニティ～」 防災危機管理アドバイザー 山村 武彦
平成 26 年度	11 月 18 日(火)	講演会・パネルディスカッション （共立講堂 約 400 名） ○テーマ「災害につよいコミュニティづくり ～マンションと地域コミュニティ～」 第一部 講演会 明治大学大学院教授 青山 侑 第二部 パネルディスカッション パネリスト 麴町消防団本部副分団長 木ノ島希久子 神田淡路会会長 大塚 實 麴町消防署長 齋藤 祐治 千代田区副区長 山口 正紀
平成 27 年度	2 月 12 日(金)	区民集会運営協議会実施（第 2 委員会室） ○区民集会のテーマについて
平成 28 年度	7 月 19 日(金)	区民集会運営協議会（第 2 委員会室） ○区民集会のテーマについて ○座長案の確認
	11 月 2 日(水)	区民集会運営協議会（第 2 委員会室） ○舟運による河川視察（案）について ○今後の方向性について確認
	2 月 27 日(月)	区民集会運営協議会（第 2 委員会室） ○舟運による河川視察（案）について ○視察内容、実施時期の確認
平成 29 年度	4 月 27 日(木)	区民集会運営協議会（和泉橋出張所） ○舟運による河川視察について ○神田川、日本橋川、隅田川、豊洲運河を舟運 により視察実施
	10 月 31 日(火)	区民集会運営協議会（第 2 委員会室） ○今後の予定について ○河川の他、濠も含めた水辺の利活用と区民集 会開催に向けた勉強会について確認

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
平成 30 年度	4 月 11 日(水)	区民集会運営協議会、勉強会 (第 1、第 2 委員会室) ○テーマ「千代田の水辺空間 ～その歴史・文化と未来への可能性～」 法政大学特任教授 陣内 秀信
	7 月 27 日(金)	区民集会運営協議会、勉強会 (第 1、第 2 委員会室) ○テーマ「外濠と神田川・日本橋川の水質について、神田川上流部強雨時における下流部の洪水影響」 中央大学教授 山田 正 ○テーマ「被災時における防災船着場の役割」 まちふね未来塾 阿部 彰
	10 月 29 日(月)	区民集会（7 階議場 約 60 名） 意見発表、パネルディスカッション ○テーマ「水辺の利活用について」 第一部パネリスト意見発表 第二部パネルディスカッション まちふね未来塾 阿部 彰 建築家、画家 木下 栄三 まちふね未来塾 高松 巖 ちよだりバーサイドプロジェクト 岡田 邦男 千代田区環境まちづくり部長 保科 彰吾 <u>○議長、各連合町会長連名による要望書の提出</u> <u>「皇居周辺の濠、河川の水質改善を求める要望書」の提出</u> 12 月 12 日(水) 国土交通大臣、環境大臣、東京都知事 (なお、区議会として同趣旨の「意見書」を議決し送付)
	2 月 4 日(月)	区民集会運営協議会実施（第 2 委員会室） ○区民集会の結果について ○今後の予定について
令和元年度	7 月 18 日(木)	区民集会運営協議会実施（第 2 委員会室） ○区民集会のテーマについて
	9 月 17 日(火)	区民集会運営協議会実施（第 2 委員会室） ○区民集会のテーマについて

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
令和元年度	11月22日(金)	区民集会運営協議会実施（第1委員会室） ○区民集会のテーマについて
令和2年度	7月21日(火)	区民集会運営協議会実施（第1委員会室） ○区民集会のテーマについて
	10月22日(木)	区民集会運営協議会実施（本会議場） ○治水対策について ・国土交通省提供の映像「荒川氾濫」視聴 ・ハザードマップを用いた説明 千代田区災害対策・危機管理課長 千賀 行
令和3年度	4月22日(木)	区民集会運営協議会、 視察（大手町タワー ENEOSビル 3×3 Lab Future） ○お濠の浄化について ・浄化施設の見学 ・お濠の現地調査
	7月19日(月)	区民集会運営協議会実施（第1委員会室） ○区民集会のテーマについて
	10月28日(木)	区民集会運営協議会実施（第1委員会室） ○区民集会のテーマについて
	12月14日(火)	区民集会運営協議会、勉強会(第1委員会室) ○お濠の浄化について ・「水都ちよだの復興を目指して」 千代田区環境まちづくり部長 印出井 一美 ○今後の取り組みについて ・運営協議会として、区に予算要望書を提出することを決定
	1月11日(火)	<u>○座長、副座長連名による予算要望書を区長宛てに提出</u> <u>「アオコの除去を行うなどの水質改善対策」</u> <u>「水質調査・分析評価」</u> <u>「水辺空間が潤い、憩い、賑わい、交流の空間として再生するための調査・研究」</u> <u>を要望</u>

実施年度	実施日	大会の方式・テーマ
令和4年度	7月21日(木)	区民集会運営協議会、勉強会 (第1、第2委員会室) ○テーマ「お濠の浄化」 東京都 都市整備局 都市づくり政策部 広域調整課 水資源・建設副産物担当課長 増井 潔 下水道局 計画調整部 計画課 水質改善事業推進専門課長 川名 幸男
	10月28日(金)	区民集会講演会(本会議場 約60名) ○テーマ「東京水循環の再生に向けてー外濠・日本橋川・玉川上水・隅田川ー」 中央大学名誉教授 同大学研究開発機構教授 山田 正
	3月14日(火)	○議長、連合町会長の連名による要望書を国土交通省、環境省、東京都へ提出 「地域自治体、民間事業者、各種団体等の連携強化」 「外濠の現状や重要性の情報発信を行い住民とともに行うまちづくりの実現」 「玉川上水等の活用による広域的な水の循環を促進する対策」を要望
令和5年度	7月24日(月)	区民集会運営協議会(第1、第2委員会室) ○区民集会のテーマについて
	10月26日(木)	区民集会運営協議会(第1、第2委員会室) ○区民集会のテーマについて
	1月30日(火)	区民集会運営協議会、勉強会 (第3、第4委員会室) ○これからの地域コミュニティの形成と継承 ・「千代田区のコミュニティ支援について」 千代田区コミュニティ総務課長 千賀 行 ・「エリアマネジメントの取組み」 千代田区景観・都市計画課長 前田 美知太郎 ・「これからの地域コミュニティの形成と継承に必要なこと」 合同会社フォーティ R&C 水津 陽子
令和6年度	7月31日(水)	区民集会運営協議会(第1、第2委員会室) ○今年度の区民集会運営協議会の進め方について

区民集会運営協議会 現テーマに関するこれまでの経過

時期		内容等
令和 5 年度	令和 5 年 7 月	◆ 第 1 回運営協議会 連合町会長から区民集会のテーマを <u>地域コミュニティに関する</u> ことに するよう希望があり、検討することとなった
	9 月	議長に対し、連合町会長協議会会長及びすべての連合町会長の連名で 「 <u>区民集会テーマ選定 要望事項</u> 」の要望書が提出される 【資料 5-1 参照】 ⇒ 議会で <u>写しを全議員に配付</u>
	10 月	◆ 第 2 回運営協議会 「 <u>これからの地域コミュニティの形成と継承</u> 」をテーマにすることを 決定
	令和 6 年 1 月	◆ 第 3 回運営協議会 有識者及び区職員（コミュニティ総務課、景観・都市計画課）を講師 に招き、テーマに関する勉強会を開催
6 年度	令和 6 年 7 月	◆ 第 1 回運営協議会 前年度のテーマに基づく年度内の計画を確認予定も、さまざまな意見 があり、 <u>今後の進め方は座長・副座長預かり</u> とされる
	8 月	議長に対し、 <u>区民集会運営協議会としてアンケート実施についての「要 望書」</u> が区議会に提出される【資料 5-2 参照】 ⇒ 議会で <u>写しを全議員に配付</u>
	11 月	議長に対し、「 <u>区内地域格差・各町会の特性を思索した『地域コミュニ ティの形成と継承』を思考する特別委員会の設置を求める陳情</u> 」が提 出され、企画総務委員会に送付を決定【資料 5-3 参照】
	令和 7 年 1 月	「 <u>特別委員会の設置は難しいが、陳情の 5 項目は区議会・執行機関と もに課題認識があり、新年度予算で新たな取り組みも予定されているた め、委員会内で継続議論していく方針</u> 」が確認され、陳情審査終了 【資料 5-4 参照】
7 年度	令和 7 年 7 月	◆ 第 1 回運営協議会 (本日)

令和5年9月28日

千代田区議会議長 秋谷 好基 様

千代田区連合町会長協議会会長 大原 正徳
[REDACTED]
(岩本町東神田町会連合会会長)

麴町出張所地区連合町会会長 横山 義文
[REDACTED]

富士見地区町会連合会会長 小木曾 正
[REDACTED]

神保町地区町会連合会会長 萩原 勝昭
[REDACTED]

神田公園地区連合町会会長 中曽根 利光
[REDACTED]

万世橋地区町会連合会会長 井田 洋二
[REDACTED]

秋葉原東部町会連合会会長 堀川 孝
[REDACTED]

神田駅東連合町会会長 津田 慎司 ※
[REDACTED]

(※ とりまとめ)

要 望 書

千代田区議会におかれましては、平素より、町会活動及び区民集会の運営につき
まして、多大なるご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。



ご承知のとおり、町会は、地域住民等で構成する自主的な地域団体として、住民間の親睦・交流や防火・防災、環境美化等、幅広い活動に取り組み、地域住民の良好な生活環境と福祉の向上に努めております。

連合町会長協議会は、こうした町会活動を支援しておりますが、区民の意識の変化やマンション居住者の増加等によって、地域や町会活動への関心が薄れ、加えて相続による税負担で売却・転居を余儀なくされることも多く、コミュニティ活動の中核を担う町会の運営に支障を生じかねない状況にあります。コロナ禍で地域の伝統的、文化的活動ができなかったことがそれに拍車をかけ、このまま地域コミュニティが衰退していくのではないかと大変懸念をしております。加えて、発生確率が高いとされる首都直下地震や近年の異常気象や台風被害等、私たち区民の安全で安心な生活を脅かす要因は増加しております。

千代田区議会におかれましては、地域及び町会を取り巻く環境の変化をご賢察のうえ、持続可能な町会活動及び地域活性化に向け、一層の支援策を講じていただきますよう、お願いいたします。

つきましては、令和5年度の区民集会のテーマに関し、別添のとおり連合町会長協議会の要望をとりまとめましたので、その実現に向けてご検討くださいますよう、よろしく お願い申し上げます。

令和５年度区民集会テーマ選定 要望事項

下記を区民集会のテーマとして要望致します。

1 町会の活動活性化の推進に関する条例の制定

千代田区内には109の町会（準町会2を含む）があり、それを基盤とする地域コミュニティがよき伝統として受け継がれております。また、各種協議会や地域活動団体等も町会が中心となり地域コミュニティの一翼を担っており、区並びに外郭団体の行政活動の下支えをしております。しかし、近年では価値観の多様化により伝統的な地域コミュニティ観を持たない区民も増えているため、地域の伝統的、文化的活動の継承について、より一層、理解を求めていかなければならないと考えております。

既に、区内在住者に占める集合住宅居住者割合は9割を超え、80万人を超える在勤・在学者等の昼間区民もおり、更には多くの企業、大学、NPO・ボランティアなどが区内を拠点に事業活動をしております。連合町会長協議会としましては、今後、こうした地縁によらない集合住宅居住者、法人・団体との連携・協働、町会への加入促進も図っていく必要があると考えております。

区議会並びに区民集会として、地域コミュニティの基盤である町会が持続可能な体制を保てるよう変わらぬご支援を賜るとともに、地域を構成するさまざまな主体間の連携・協働を推進していただけますように条例の制定を切にお願いいたします。



令和 6 年 8 月 6 日

千代田区議会議長 秋谷 好基 様



要 望 書

令和 6 年度第 1 回区民集会運営協議会にて、2023 年度連合町会長協議会にて実施した町会アンケートの調査結果（別添資料）を基にし、「これからの地域コミュニティの形成と継承」についてご討議を深めていただくことを委員、区議会事務局依頼しました。

2023 年度の連合町会長協議会としましては、千代田区内 107 町会の現状把握に有益な資料であるとの認識から連合町会長会議にも提出した資料であり、地域振興部長からエビデンスとして示されたことを重く受け止め区としても検討をすすめるとの回答を頂いています。

しかし、区民集会運営協議会では、1 人の区民が実施したアンケートであるとの見解から提供資料に留めたと参加委員から聞いております。

2024 年度の区民集会のテーマ「これからの地域コミュニティの形成と継承」を継続して取り組む上で、現状の区内 107 町会の実態を把握することは対策検討の上で不可欠であると考えます。つきましては、区民集会運営協議会として、別添資料の町会アンケート同様の調査を公式に早期に実施頂くことを要望致します。



町会アンケートへのご協力を頂きありがとうございました。調査結果の POINT をグラフ中に記載しています。

1, アンケート実施概要

各出張所の町会長会議等を通じて、区内 107 町会にアンケートを配布。

現時点(2024/04/30)での回答数 66 町会 61.7%

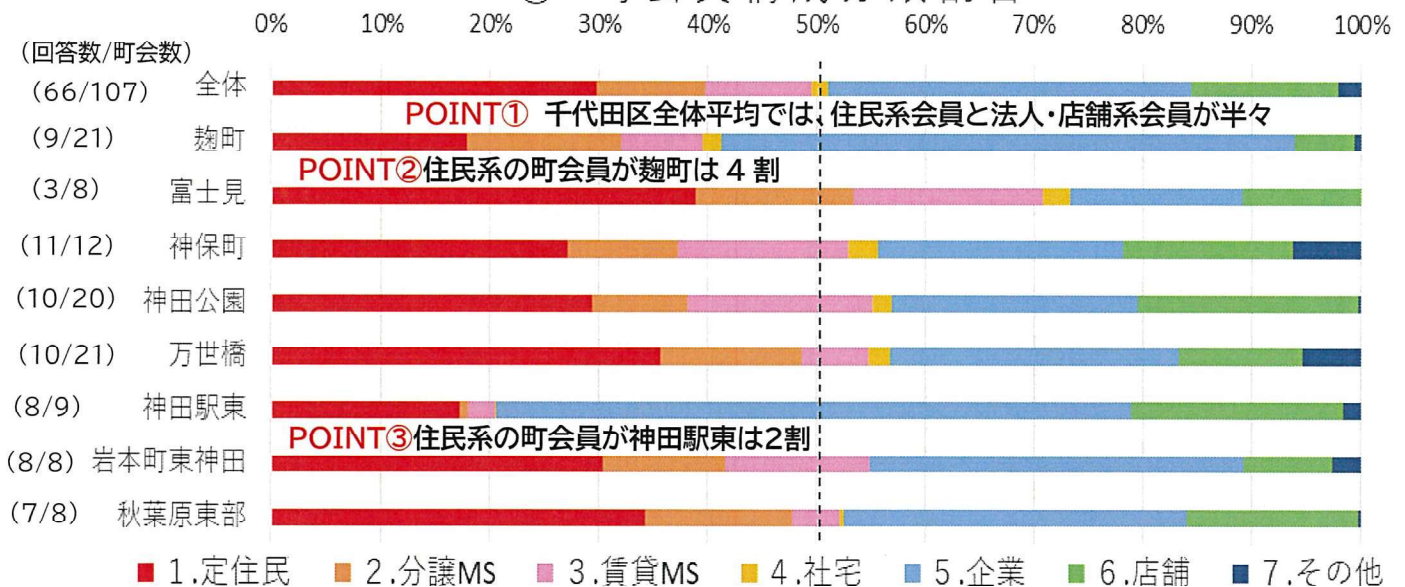
質問内容 質問1 町会員の構成割合を大体でご記入ください。

質問2 該当町会員の、増減傾向

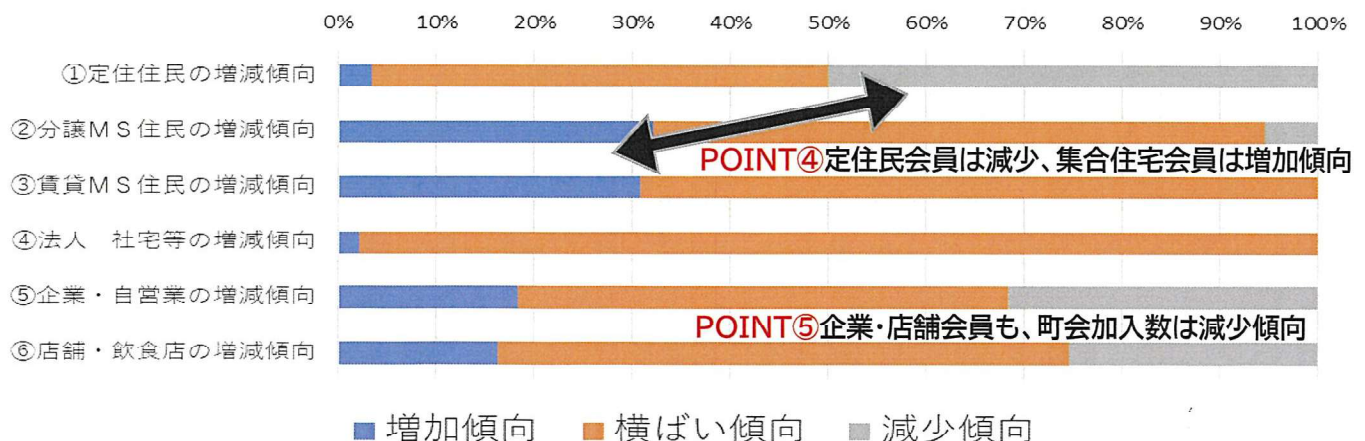
町会員の分類（町会構成員）		増減傾向・該当する傾向に丸印		
		増加	横ばい	減少
1. 一戸建の持家・ビル内の自宅（ビル所有者） 元在住者（会社はあるが住居は町会外など）	%			
2. 分譲マンションなど（又貸し含む） ※	%			
3. 賃貸マンション・民間アパートなど ※	%			
4. 社宅・会社の家族寮・公務員宿舎など	%			
5. 法人企業・自営業など	%			
6. 店舗・飲食店など	%			
7. その他（ ）	%			

※マンションが1棟単位で町会加入している場合、町会員数は1棟につき「1」でカウントしてください。

2, アンケート結果概要(抜粋・速報値) ① 町会員構成分類割合



② 町会員構成分類別 増減傾向



区民集会運営協議会委員の皆さま（連合町会長各位、議会運営委員会各位）

2024 年度区民集会の取り組みについての要望

委員の皆さま、日頃よりお世話にありがとうございます。

2023 年度の連合町会長協議会として、区民集会のテーマ選定にあたり要望書を提出し、「これからの地域コミュニティの形成と継承」をテーマとして採択しました。

同時に、地域コミュニティの実態を把握するために、連合町会長協議会として区内 107 町会にアンケートを実施し、添付資料の通りの結果を得ました。

都心区の千代田区ならではの町会アンケートの結果、地域コミュニティの中核を担っている町会の半数が住民でないという実態が見えてきました。同時に、集合住宅の居住者は増加傾向にありますが、残念ながら地域コミュニティの中核を担っている町会への加入にはつながっておらず町会員の減少傾向が増幅していることが顕在化しました。

地域の代表である連合町会長と区民の代表として選出された区議員とで構成される区民集会ですので、一般論でなく千代田区の実態を示す町会アンケートの結果を基に 2024 年度は議論を深めて頂くことが、区民にとって「これからの地域コミュニティの形成と継承」を考えていく上で最善の対策検討になると考えられます。

つきましては、2024 年度の区民集会運営協議会として、添付町会アンケートの結果内容についてのご討議と、地域コミュニティを継承するために何を考えて具体的に何に取り組んでいくべきかのご討議を進めて頂きたいと思っております。

企画総務委員会 送付 6－4 6

区内地域格差・各町会の特性を思索した「地域コミュニティの形成と継承」
を思考する特別委員会の設置を求める陳情

受付年月日 令和 6 年 1 1 月 1 4 日

陳 情 者 提出者 1 名

陳 情 書

千代田区議会議長
秋谷 こうき 様

2024 年 11 月 14 日

区内地域格差・各町会の特性を思索した「地域コミュニティの形成と継承」

を思考する特別委員会の設置を求める 陳情

陳情者

区議会議員並びに区職員の皆様には、基礎自治体としての千代田区政にご尽力いただき誠にありがとうございます。

千代田区におきましては、2013 年 7 月に「地域コミュニティ活性化検討委員会」を設置し、2015 年 1 月に【コミュニティ施策の一元的推進に向けた 方向性の提示】を報告書として取り纏め、2015 年 5 月から区議会に「マンションと地域コミュニティ活性化特別委員会」が設けられ 3 年間にわたり議論を進め調査報告として提出されました。しかし、残念ながら制度は形骸化し継続性も乏しく、その効果は局所的にとどまっていると言わざる負えないところです。

区内在住者は 68,000 名程度まで増加しましたが、区内全域で住民が増加したのではなく、住民が減少している地区も多々あり、区内の地域間格差や、地域コミュニティの中心である町会の規模格差も顕著に拡大している傾向にあります。

つきましては、地域コミュニティの中心的役割を担っている町会の現状を踏まえ、以下の項目の検討を含めた特別委員会の設置を求めます。

- 1, 区内 107 町会の町会員構成や体制等の実態把握の調査
- 2, 近隣自治体の地域コミュニティ活性化対策の調査
- 3, 区民の意識調査や町会・自治会との意見交換の実施
- 4, 町会の規模格差、法人・店舗も勘案した町会補助金制度の見直し
- 5, 新規町会員の加入促進支援対策



以 上

送付6-46 陳情審査部分抜粋：令和 7年 1月23日 企画総務委員会（未定稿）

○小林委員長 それでは、日程1、陳情審査に入ります。企画総務委員会に新たに送付6-46、区内地域格差・各町会の特性を思索した「地域コミュニティの形成と継承」を思考する特別委員会の設置を求める陳情が送付されました。陳情の写しをご覧ください。陳情の朗読は省略いたします。

本陳情では特別委員会の設置を求めることとなっておりますが、当委員会に送付された趣旨としては、区議会の公式な会議体では特別委員会の設置は検討しておりません。審査になじまないということで陳情者へお返しするということになっておりますが、せず、丁寧に扱うということで、件名とは異なりますが、趣旨を酌み取り、陳情者が求める特別委員会の設置の中で検討してもらいたいという5項目の陳情項目を、要望を受け止めて審査することにしたいと考えております。そのように審査を進めていくことでよろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 はい。本陳情は、議会として5項目の検討を求められております。その内容は当区では地域振興部の分掌事務であり、地域振興部の理事者が、まず現状の状況を情報共有してもらい、また、必要に応じて執行機関に確認する事項は質疑していただき、5項目の検討を進めることにしたいと思います。そのように審査を進めていきたいんですけども、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 はい。それでは、まず本陳情について、執行機関から情報提供等を頂けないでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 恐れ入ります。それでは、今回陳情で頂きました課題等におけます現状認識ですとか取組状況について、かいつまんでご説明させていただきたいと思います。

まず、町会におけます加入者の伸び悩みですとか、担い手、役員の成り手不足といったことによります持続可能性への懸念につきましては、かねてより様々なところからお寄せいただいております。また、今年度、区議会各定例会におきましても様々にご議論いただいているなど、私どもといたしましても大きな課題として認識しているところでございます。

こうした中、町会運営における困り事や課題につきましては、連合町会長会議をはじめ、今年度再開いたしました町会長また婦人部女性部長の研修会の中でも頂きましたご意見、また、試行的に実施させていただきました青年部の方との意見交換会のほか、各出張所長が町会の方々と日頃触れ合っている中で目にしたり耳にしたりすることを聞くなどにより、把握に努めているところでございます。

取組状況といたしましては、町会の加入促進をはじめ、町会運営の持続可能性に資する支援等について、近隣自治体の取組や事例も研究しながら検討を進めているところでございまして、令和7年度予算でお示しできればと考えているところでございます。また、併せまして区ホームページ等での情報発信ですとか、運営マニュアルの作成などにも取り組

んでいく必要があるというふうに考えておりまして、これについても今作業を進めているところでございます。

今後、町会関係の皆様や議会からも引き続きいろいろとご意見を伺いながら、進めていきたいと考えているところでございます。

簡単でございますが、認識と現在の取組状況でございます。

○小林委員長 はい。今、情報提供を頂きました。委員の皆さんから執行機関に対する確認等がございましたら、質疑をお願いします。

○大坂委員 るる説明をありがとうございます。やはり千代田区において、町会ですとか地域のコミュニティ、これをいかに活性化させていくのか、持続させていくのか、先々につなげていくのかというのは、本当に喫緊の課題であり、世の中の情勢が変わっていく中で、それを支えていくというのは本当に大変なことだと思っています。ましてや町会で実際その実務に当たっている方々の苦労というのは、本当に計り知れないものがあるのかなと思っています。そうした中で、区としても一定の認識を持った上で、先ほど説明にもありましたけれども、令和7年度の予算にも、こういった形になるかまだ我々には分かりませんが、対応していただけるというところは確認できたのかなと思います。

詳しいところについてはしっかりと予算委員会等々で精査をさせていただければと思うんですが、一方で、やはりこういった陳情が上がってくるということは、それぞれ切実な思いが各町会にはあるのかなと。それも、我々議員としても地域を回っていく中でいろんなところでいろいろな話は聞いていますので、それも共通の認識にはなっているのかなとは思っているんですけども、一方で、この例えば担い手不足という問題を一つ取っても、それぞれの町会で実情は全然違うのかなというのも肌感覚として持っています。というのは、実際に本当に町会員が全く数がないような町会もあれば、たくさん人はいるんだけど、昔からやっている人たちが固まっていて次の後継者がなかなか育っていかないと、そういった温度差があったりとか、それに対して一律に対応していくというのはなかなか難しいのかなというのも私としての肌感覚として持っているんですけども、そういったところの認識は区としてはいかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 ご指摘いただいたとおり、千代田区に今107の町会がございまして。その107町会、おっしゃるとおり、一律にこういった支援がというのはなかなか難しいというふうに私も想定をしているところでございます。よって、やはり恐らくお困りになられている町会はほとんどだと思っておりますが、そのお困り事をお聞きしながら、その町会ごと、団体ごとにこういった支援をしていくのがいいのかというのは、ピンポイントで対応していく必要があるんだろうなというふうに思っております、そういったスキームをどういうふうに組んでいこうかということも含めて、現在検討を進めているところでございます。

○大坂委員 ありがとうございます。それぞれの町会ごとにカスタマイズした支援をという話もありますけれども、なかなかそれが実際機能するのかどうかというのは、本当に慎重に設計をしていかなければいけないし、果たしてそれが本当に公平な支援につながっていくのかということも、しっかりと見定めていかなければならないのかなというふうには思っています。

陳情書を見ると、1番目の項目に107町会の町会構成や体制等の実態把握の調査とい

う項目があるんですけれども、どこまでできるかというのは、それぞれの町会の協力体制ですとか、任意団体ですので、区として踏み込んでいいところ、駄目なところ、可能なところ、それぞれあると思うんですけれども、こういった調査というのは何かやられていらっしゃるのか、それともこれからこういった要望を受けて動くことが可能なのか、その辺についてはいかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 こちらに関しましてですが、現時点ではちょっとなかなか想定が難しいなというふうに考えているところでございます。町会、団体によっては、もう実質的にかなりお困りになられていまして、ご自分たちのところの実態、正確な状況把握が困難なところもあるというふうには聞いているところでございます。

また、現在の町会の形といたしまして、在住、在勤、在学者、または事業者の方々に構成されているところもあるともちろん聞いているところでございますが、一方で既に転出した方ですとか、その事業所を退職したり、または転勤をされた方、または近隣の大学で町会にいろいろ手伝いをしていた方で、卒業して出ていってしまったんだけど、いまだにお手伝いということで関与してくださっている方と、既に親しんだ町会ということで今でもお手伝いをしてきている方もいらっしゃるというような町会もあるということで、いわゆる様々な構成、関係性で成り立っているところもあるというふうには聞いているところでございます。

こうしたこともございまして、全ての町会のこうした構成を把握していくことが最善の策なのか、または別の視点、例えば先ほどちょっと触れましたが、相談事があるということで、そのお申し出を頂きながら、共に考えながら、こういった支援がいいのか、いわゆるニーズとしてどうなのか、またはそれに合った支援なのかどうかということも一緒に考えながら進めていくような、そういったようなことも検討の一つとして含めて検討を進めてまいりたいという状況でございます。

○大坂委員 なかなか難しいのかなというところは理解いたしますが、やはり現状がどうなのかというところをしっかりと見極めていかなければ、対策というのはなかなかうてないというのも事実だとは思います。

千代田区の場合は、出張所単位でそれぞれ町会が構成されているという仕組みにもなっていますし、各出張所で町会長を集めて町会長会議が定期的に行われていますし、そこでの情報収集というのはかなりしっかりと綿密に行われているものだというふうに認識していますので、そのところをうまく機能させながら情報収集はして、引き続きやっていただかなきゃいけないのかなと思っています。

連合町会長会議ですとか婦人部長の会議ですとか、定期的にといても年に何回かしかない中で、偏った意見というか、声の大きな情報しか吸い上げられていかないということだけは避けなきゃいけないと思っていますので、そういった、本当に困ってから切実な思いが届く前に、ほんとに困りそうだなというところの情報の吸い上げというところにはしっかりとサポート、それは出張所長の仕事になってしまうのかもしれないんですけれども、やっていただければいいのかなというふうには思うんですけれども、いかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 ただいまご指摘いただきましたとおり、これまでという言い方になりますでしょうか、様々な会議体を活用させていただきつつも、どちらかという

と行政からのお知らせという、比較的ワンウェイになってしまってきたなというところは反省をしているところでございます。そういった会議でのやり取りも非常に重要ではあるかと思います。また、ご指摘いただいたように、なかなかそれでは個々の団体様、町会様の細やかな困り事、ご意見というのがなかなか吸い上げられていないということも認識してございます。そういったことも踏まえまして、こういった聞き方というんでしょうか、そういったことも今ちょっと頭を悩ませているというところで、何がしか取組ができたらいいなというふうに考えてはございます。

○大坂委員 できればそういった情報の収集については、しっかりと体制を立て直した形で組み合わせていただいて、一定程度、委員会のほうに報告を逐次頂ければありがたいのかなと思います。

もう一つは町会の規模格差の問題ですね。これもなかなか公が手を突っ込むところとしては、うーん、というところはあるのかもしれないですけども、区として現状をどういうふうに認識をしていて、何か対策等々があるのか、施策等を行っているのか、お聞かせください。

○赤海コミュニティ総務課長 こちらの項目に関しましては、補助金制度の見直しということで挙がっているものでございます。千代田区のいわゆる町会の補助金に関してですが、少しご説明させていただきますと、創設が昭和40年度でございます。このときに一律3,000円ということでスタートしております。この後に、昭和52年度に世帯割というものを追加で導入させていただきましたという経緯がございます。その後、均等割と申し上げたものと世帯割に関しましては、ある程度状況に応じていわゆる増額の変更を重ねてきたというような状況がございます。

この町会補助金の性質なんですけれども、私どもといたしましては、防犯、防災、環境美化、子どもや高齢者の見守り、レクリエーションといった、区民の皆様、身近な暮らしに関わる様々な活動について、行政代位的な役割を担っていただいていると、そういったような考えに基づきまして、世帯数を基準としているというような認識でいるところでございます。

ただ、一方で、地域を取り巻く状況ですとか町会を取り巻く状況、社会状況も変化してきておりますけれども、今後こうした町会員の構成を把握しての対応が果たして先ほど申し上げたように最善策なのか、または、これも繰り返しになりますが、別の視点で、補助金に限らず、支援策というものを複合的に考えつつ進めていきたいというようなところでございます。

○大坂委員 なかなかこれも情報がしっかりと正確な構成が分からない限り、適切な対応策というのは難しいというところはあるのかなというふうに、今お聞きしながら思いました。人が少ないところはやはりどうしても活動というのは限られてしまう中で、昨今、大学のボランティアですとか、そういった方々が地域のイベントに積極的に参加していただけるようになって、大分イベントも開催しやすくなっているのかなというのは町会員の立場から感じるんですけども、そういったものもうまく活用していただきながら、町会活動が継続して行えるように、活発化していけるように、サポートをしていただくのがいいのかなというふうに思っていますけれども、その点はいかがでしょう。

○赤海コミュニティ総務課長 おっしゃるとおりかと思います。費用面での支援も、一つ

こちらにご指摘いただいているようにあろうかと思います。もう一方で、今、様々な形で、学生ボランティアの方ですとかそういった方々が、いわゆる正式な町会員ではないにしても、イベントなど事業において協力していただいているという実態もあるというふうに認識してございます。そういったことに対して、いわゆる経費での支援をしていくことも一つあろうかと思いますが、いわゆるソフト的な対応をしていくこともあろうかと思っております。今それに関しても頭を悩ませているところでございます。

○大坂委員 ありがとうございます。

最後に、新規町会員の加入促進支援対策、これも非常に重要だと思っています。ただ、なかなかこれ、積極的にというのが難しいのかなというところで、例えば区民体育大会のときとか、そういったところで町会を紹介したりだとか、この前、神保町地区では、活性化委員のイベントの中で町会未加入の方に対して積極的にお声がけをして町会長を紹介するだとか、そういったことは取組としてやっているんですけども、なかなか町会加入にインセンティブをつけて促進するというところまでは、町会というものの性質上、例えば商店街とかだと融資のあっせん制度の中で町会加入が条件で利率が下がるとか、そういった仕組みがあるんですけども、なかなか町会でそれは難しいのかなというふうには思うんですが、例えば防災グッズを配ったりだとか、そういったようないわゆる販促的なところはできるのかなというふうには思いますので、そこはうまく何かアイデアを練りながら、全区的にキャンペーンを張ったりだとかということも、一つやり方としてはあるのかなというふうにも思っているんですけども、これまで何かそういったことをやってきたのか、それともこれから何か考えていることはあるのか、あればお聞かせください。

○赤海コミュニティ総務課長 例えばインセンティブというか、ではないんですけども、これまで、町会加入促進の一つと申し上げられると思うんですが、主に転入者の方々に対してというふうになってしまいますけども、転入の際にお手続いただいた際に、地域の連合町会のエリアマップというんでしょうか、町会区域のものを配付させていただいたり、町会加入についての幾つかのご案内を封入させていただいたりというような取組はしておりました。じゃあ、それがいわゆるインセンティブになっているかという、インセンティブのためにということではなくて、いわゆる知っていただく、町会に入っていたきたいなということでの取組でございました。

今後こういった形で進めていくかについてもなんですけれども、まずは千代田区の町会ってどういう成り立ちだったのかとか、千代田区の町会ってこういうところなんですよというようなこと、または町会に入ることによって防災とかそういったようなことのときに非常にこういうふうになるんですよというようなことの、いわゆる情報発信が我々のほうでは足りていなかったのかなというところがありまして、まずはそこをまず取り組んでいるところでございますけども、併せて町会加入促進の何かも、やはり検討の一つに寄せなければいけないかなというふうには考えているところでございます。

○大坂委員 いろいろと悩んでいらっしゃるということがよく分かりましたが、一方で、我々というか、今、私の質問に対して、しっかりと同じ方向を向いて課題認識はしていただいた上で様々ご検討いただけるのかなというふうに思ったので、その点については安心はいたしました。いずれにしても、今日質問した項目等々を踏まえてしっかりと検討していただいて、方向性が出た段階で委員会のほうにしっかりと報告をしていただкина

ら、議論を深めていくことが非常に重要なのかなと思っています。

先ほど一番最後にありましたけれども、町会の成り立ち等々が大切だということがありました。思うに、やはりなかなかこの町会のサポートというのが難しい一つの要因として、町会というのがやっぱりこの地域に根差した祭礼の文化と本当に強く結びついているところなのかなと。だからこそ公がなかなか手を出しづらいというところではありますが、一方で、区長ももう新年会の挨拶等々で、さんざん祭礼文化が非常に大事だということを言われていますし、我々区議会としてもそういったものをしっかり守っていかなければいけないとの共通認識に立っているところだと思うので、その点も踏まえてしっかりと方向性を導き出していいただければなと思っていますので、その点、お願いをしたいと思います。○印出井地域振興部長 ただいま大坂委員から様々な視点でご指摘を頂きました。課長が申し上げたとおり、令和6年から区議会でも、地域コミュニティ、その中核としての町会の役割、支援の在り方、様々な観点からご議論いただいているところでございます。先ほどご指摘のあったように、加入促進、あるいは町会ごとにおける持続可能性の支援、それから補助金の問題とマンパワーの問題、我々としても幾つかそういう視点の中で、町会の今後について検討して、何とか令和7年度予算の中では、打ち手、あるいは打ち手の端緒を示していきたいというふうに思っております。

その中で、やはり千代田区の町会、千代田区全域にわたって様々な祭礼文化があり、それというのは、ぽっと出てきたものではなくて、いずれの地域でも、江戸由来あるいは明治とか、かなり100年を超えるような歴史と文化を継承している祭礼でございます。そういったものを運営することそれ自体が町会の求心力になっております。ただ、一方で、見かけ上、神事との切り分けということについては、やはり様々な課題があるかなというふうに思っています。私も地域振興部のほうでは文化財も所管しておりますので、そういった観点も含めた今後の祭礼文化とコミュニティ等についてはしっかり検討しつつ、祭礼そのものの運営に当たってのコミュニティとの関わりについても、ご指摘を頂いたことを踏まえ、また、その切り分けの問題については本当に議会とやっぱり共通認識がないと、なかなか我々としても踏み込めないところでありますので、思いを一つにしながら、将来的な祭礼文化とコミュニティの支援についてしっかり検討してまいりたいというふうに思っています。

○小林委員長 ほかにございますか。

○のざわ委員 今、大坂委員にお話しいただいた、具体的なところはちょっと申し上げられないんですが、町会、雪国で雪がすごい迷惑だけど、ほかの方から見るとすごい価値があるみたいに、この千代田区における町会、この町会のコミュニティは物すごく大事だというふうに、ほかの区とか比較してみると物すごく感じまして、歩いていると、必ず最後にお話があるのが、このまちで生まれて、このまちで育って、このまちが大好きだから、このまちで死んで何か問題ありますかみたいな、子どもにもそういう形で頑張ってもらいたいという言葉に全てが、町会に対する愛情、愛があるから、こういう質問も出るのかなということで、この細かいことに関しましては予算委員会等々で、ちょっと今ぱっと、大坂委員がお話しされたんで、ちょっといいアイデアはないんですが、ぜひこのまちの町会を大事にして、地域コミュニティの形成と継承ということに引き続き愛情を持っていろいろ考えていただけたらというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 ご指摘いただきました。先ほどの答弁と少し重なりますが、今非常にいろいろなことを頭の中で悩ませているところでございます。これもやはりご指摘のように、我々行政だけでは何も、全てが完結できるわけではなくて、やはりお住まいの方々、それから今存在している町会の方々のご協力なしでは、いろいろな目標を達成することができないというふうに認識してございますので、そういった思いもありますため、今いろいろな見直しというか、構築を図っているところでございます。ご指摘のとおり非常に重く受け止めてございますので、ご理解賜ればと存じます。

○のざわ委員 ありがとうございます。難しいと思うんですが、理想的には本当、107町会の各それぞれの一人一人の気持ちに沿うような形で、この地域コミュニティの形成と継承というのをご検討いただくと、よろしいんじゃないかなというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○赤海コミュニティ総務課長 しっかりと検討を進めてまいりたいと思います。

○小林委員長 ほかにございますか。

○入山委員 今回、陳情書が出たということで、こちらの陳情者にとっては、地域、町会、かなり熱い思いがあるということで受け止めてはいるんですけども、一般質問とかでも行いましたけども、町会ができて70年たつ中で、人口構成等々が変わってきてはいると思うので、その中で新しい住民の方をいかに町会に入れていくか、持続可能な町会をつくっていくかということがかなり課題なのかなと思う中で、先ほど課長が説明されていましたが、若者の討論会というのがあったと思うんですけども、どのようなきさつで、どのような内容が話されたのか、ちょっとお伺いさせていただけますか。

○赤海コミュニティ総務課長 今回、試行的に、青年部の方というふうに先ほど申し上げましたが、青年部だけではなくて、町会のいろいろなものを担っていらっしゃる若い方という言い方も含めて、各連合で2名程度でしたけれども、集まっていたくというふうにしました。

これは、いきさつといたしましては、これまでやはり町会長会議ですとか連合町会長会議、それから婦人部長、女性部長の会議などにおきましては、比較のご意見を直接伺うことがこれまでできていたであろうと。先ほどワンウェイの報告ばかりになってしまったとは申し上げておりますけれども、比較的接することが可能であったということがございました。一方で、イベントにしても何にしても、大体現場で頑張っている若年部系の方々というんでしょうか、そういった方々と直接お話を伺ったりとか、町会長さん、婦人部長さん、女性部長さんたちが抱えている悩みと同じなのか、また異なった視点があるのかというふうにお聞きする機会がなかったということがございましたもので、今回あくまで試行的ではございましたけれども、実施をさせていただいたという状況でございます。

今回ご意見を頂いている中で、ちょっと詳細は割愛させていただきますが、やはり担い手不足とかそういったことに関しては、これまで町会長さん、婦人部長さん、女性部長さんからお聞きしていたようなものとやはり同じようなご意見が多うございました。また、一方で、困り事だけではなくて、連合町会ですとか町会でこういったような工夫でイベントなどをなさっているかということもお聞きしておりまして、今回、実施してよかったなと、手前勝手な言い方になりますけれども、隣の連合町会ですとか、いわゆる麴町地区、

神田地区でなかなかこういったことを共通で話す場がなかったということで、そっちはそんなふうにはやっているんだねという、いわゆる相互がお知り合いになるとか、そっち、そういうのをやっているんだったら、それはいいねという場が見受けられましたもので、これは非常にいい場だったなというふうに、自画自賛ですけれども思いました。

○入山委員 今、課長のほうから、地域、麴町、神田と地域連携もできたということで、本当に非常に有意義だったのかなと思います。また、その中でよく言われるのが、町会ごとに、町会員は多いんだけども事業をしていないところとか、町会員が少ないんだけども事業をやっているという町会も結構多いと思うんですけども、そういった事業の中で、資金支援というのはどのような枠組みというか仕組みでやられているんでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 いわゆる町会さんですとか幾つかの団体さんが、一緒に事業、イベントなどを行った際の補助というご質問かと思います。現在、私どものほうでは、地域コミュニティ活動事業助成という名称で、1団体につき15万円でしたでしょうか、交付させていただきまして、これが、少し要件を緩和しつつ、3団体以上であってもなんですが、3団体までで合同で実施をするときには、それぞれに15万円を限度に補助をしますというようなスキームで、今、助成をさせていただいているというもので、運営をさせていただいているというところでございます。

○入山委員 先ほど、今説明を頂きましたけども、年間15万ということだと思うんですけども、回数とかもそうなんですけども、回数の緩和、さらには資金面ですね、やっぱり物価の高騰とか人件費の高騰とかもありますので、ぜひそこら辺をちょっと柔軟に考えていただきたいなと思うんですけども、いかがですか。

○赤海コミュニティ総務課長 先ほど少し触れさせていただきました、いわゆる団体様に対する補助と合わせまして事業に対する助成も、一律、ある程度の基準というんでしょうか、を設けながら今日まで来ているところでございます。この中で、やはり物価高騰ですとか、そういったようなことが今やはり地域からもご要望で頂いているところでございます。ここにしましては、単体のそれぞれの補助金をどうするということも一つ検討の仕方かもしれませんけれども、我々が所管させていただいております様々なコミュニティ関係と申しますでしょうか、そういった補助金全体で、見直しという言い方になりますでしょうか、そういったようなやり方もあろうかなというふうに今考えているところではございます。

○入山委員 ありがとうございます。

ちょっとまた違った質問させていただきますと、4番である町会の規模格差、法人・店舗というものがあるんですけども、店舗・法人なんかは区の中にとっては重要な存在だと思うんですけども、そちらについての、まあ、補助金の見直しとまではなかなか難しいかなと思うんですけども、行く行くはどのように店舗・法人なんかは、区民の、区の中でどのような立場になっていくとお思いですか。

○赤海コミュニティ総務課長 いわゆる今回の陳情でもご指摘いただいております。コミュニティ施策の一元的推進の中でも一部触れさせていただいておりますが、コミュニティという言葉の中には、今、課題として議論いただいております町会、お住まいの方、お勤めの方、いわゆる在住、在勤、在学者だけでなく、ここで事業を営んでいる方々、それは町会員の方もいらっしゃると思います。そういったこと全てがやはり一つの大きな

意味での区民というふうな捉え方はしているものでございます。一方で、その構成をどうというようなことに関しては、どのような把握の仕方ですとか、それを把握することでどうこうというのが、果たして、先ほどの言い方になります、最適なのかどうかについても、今ちょっと研究をしているところという状況でございます。

○入山委員 最後に新規町会員の加入促進支援なんですけども、新住民からの意見というのはどのようなものが上がっていますか。

○赤海コミュニティ総務課長 大変恐縮でございます。私がここに来てから、積極的にこういった声があったかというのは、実はちょっと取り寄せていない状況でございます。ただ、過去に聞いたレベルではありますけれども、やはり町会が何をしているところなのかが分からないとか、入ってどういったメリットがあるのかが分からないというようなお声が、転入者の方だけではないかとは思いますが、そういったお声があったというのは耳にしたことがございます。

○入山委員 新しくお住まいの方の意見も重要なのかなと。町会の意見もちろん重要なんですけども、なぜ入らないとか、なぜ興味がないのかということは必要なのかなと思うので、ぜひそこら辺は、ぜひアンケートでも何でもしていただいて、調べていただきたいなと思います。

以上。

○赤海コミュニティ総務課長 ありがとうございます。そうですね、区民世論調査で定期的にコミュニティに関して幾つか聞いていることがございます。そういったものも活用しながら、世論調査を主に活用しながら、そういった設問項目もあり得るかと思しますので、ちょっと検討させていただきたいと思います。

○小林委員長 いいですか。

今も委員から指摘とか質問が入っているんですけど、質疑をしていますけれども、具体的に例えば新規町会員の加入促進対策といっても、現状、役所が把握している、各町会でやっていることとかの現状が分からないと対策が打てないんで、この辺を一旦整理して、どういうことを各町会がやっているのか、試みているのか、役所はどういうふうにそれを受け止めて、どのようなことを今後対策していくかというまでの整理を一度していただかないと、対策になっているかどうか分からなくなっちゃうんで、それが一つと。

先ほど意見がございましたけれども、町会補助金の制度の見直しといっても、今の現状どういう補助金、先ほど団体補助金と事業に対する補助金とかを組めば15万円になるとかというようなのがありましたけど、今現状でどういうものをどういうレベルで出していて、その例がこんな例があるみたいなのをちょっと1回まとめていただいて、報告していただかないと、これについても見直しをするときにレベル感が合わなくなっちゃうんで、その辺もう一回調査をして、ご報告していただける、随時ご報告していただかないと、これ5項目もあるんで、厳しいかなと思うんで、その辺は検討していただきたいと。

もう一つ言うと、先ほど委員から出ていないんですけど、ご説明の中でもなかったと思う、ないというかあまり積極的に触れていないんですけど、同じような、この千代田区だけでなく、この近隣の自治体も地域コミュニティについて活性化対策をやっていたり困っていたりするのがありますよね。その辺についても、情報交換なり、レベル感を合わせていて、多分悩んでいることはかなり新宿なんかは同じですし、同じような社会現象

の中にいるんで、その辺もちょっと調査をしていただいて、コミュニケーションを取っているんであれば、またそれもいいことなんで、報告も頂きたいというようなことを、一つ一つ現状を確認しながら整理をしていって、ご報告をしていただくような形がいいかと思いますけれども、その辺も併せて検討していただきたいと思いますけど、いかがですか。

○赤海コミュニティ総務課長 ご指摘いただきましたように、町会加入促進に関しても、お話しいただきましたように、現在、各町会さんでどのような工夫をなさっているのか、または工夫ができなくて逆に困っていらっしゃることもあろうかと思います。そういったことも聞き取っていききたいなというふうには考えてございます。お時間は頂くかもしれませんが。そういったことで、どういったいわゆる支援策があるのかというのを検討してまいりたいと考えているところでございます。

また、二つ目の補助金についても、確かにおっしゃるとおりメニューがどうなっているのかとか、そういったものに関しては、基本的に年度当初に町会長会議などでは、こういったメニューがありますというのはお配りはしてはいるんですけど、なかなかそれだけではご理解を深めていただくことは難しいかもしれませんので、そういったことをまとめていってお示しできるようにしたいなと考えてございます。

また、三つ目の近隣自治体のコミュニティ支援策などにつきましても、今年度まさに近隣区に担当者が出向いて、いろいろ聞き取りなどを進めているところでございます。資料収集なども行っているところでございまして、こういったことを、各区の取組状況などをまとめられましたら、ご報告をさせていただきながら、相談させていただきながら進めてまいりたいと考えてございます。

○小林委員長 ほかにございますか。質疑はよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 大丈夫ですか。それでは、質疑がないので、本陳情に関する質疑を終了いたします。本陳情につきまして、委員の皆様から多くのご質疑を頂きました。皆様からの意見等がございましたら、お願いしたいと思います。

○大坂委員 るる意見がありました。ただ、冒頭、委員長のほうから整理をしていただいたとおり、この陳情書に関しては特別委員会の設置を求める陳情という形になっています。千代田区議会においては、この公式な会議体で特別委員会の設置について議論するということはこれまでしてこなかったという点もありますので、なかなかこの陳情を採択するか検討していくということは難しいのかなというふうに思っています。一方で、この陳情者が要望しているこの五つの項目の検討、これについては、これまでの議論の中でも分かるとおり、執行機関側も、そして我々区議会側も、しっかりと課題として認識をして、前に進めていこうという共通認識があるところでもありますし、情報提供の中でも令和7年度の予算の中で新たな取組もしていただけるということも明らかになっていますので、一旦この陳情については本日の議論の議事録をもってお返しをし終了していく中で、引き続きこの企画総務委員会の所管の事項の中でしっかりと議論を進めていくということで進めていってはいかがかなというふうに思っているんですけども、どうでしょう。

○小林委員長 はい。ただいま取扱い、意見と取扱いの話になりましたけど、この併せて、この今大坂委員から発言いただきましたけれども、委員会としてこの陳情の取扱いをどう持っていくかということをちょっと諮りたいと思いますけど、いかがですか。

○米田委員 大坂委員の述べられたとおり、議事録をつけてこの陳情者にお返しして、この陳情を終了してもいいんじゃないかなと。

○小林委員長 はい。ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 そうしたら、今、大坂委員からも指摘がございましたように、この陳情につきましては、今までの議論、議事録を委員の方にお示しし、陳情自体については終了させていただきますと。ただ、五つの課題が地域振興部の所管、うちの所管部分になるので、それについては引き続き委員会のほうで報告を頂きながら進めるという扱いにしたいと思います。

執行機関のほうはいかがでございますか。それでよろしゅうございますか。

○印出井地域振興部長 今、委員長からご指摘を頂きました。陳情の趣旨はまさに先ほど大坂委員にご指摘いただいたところであるのかなと思いつつ、ここで示された課題については、まさしく我々地域振興部が取り組むべき一丁目一番地の課題が並べられているというふうに認識してございますので、来年度予算の審議の中で、委員会は違いますけれども、審議の中でご議論いただくこと。一方で、来年度予算だけで解決するようなテーマでもございませんので、継続して、我々のほうとしても、今日頂いたご意見を踏まえて、ご報告できるように取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○小林委員長 はい。それでは、この陳情についてですけれども、本陳情については、大坂委員の発言があったとおり、議事録をもってお返しすると、ご報告をするということで、本陳情については審査を終了することといたしますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 はい。それでは、以上で、日程1、陳情審査を終了いたします。



区民集会運営協議会

これからの地域コミュニティの形成と継承

2025年 7月17日

地域振興部コミュニティ総務課

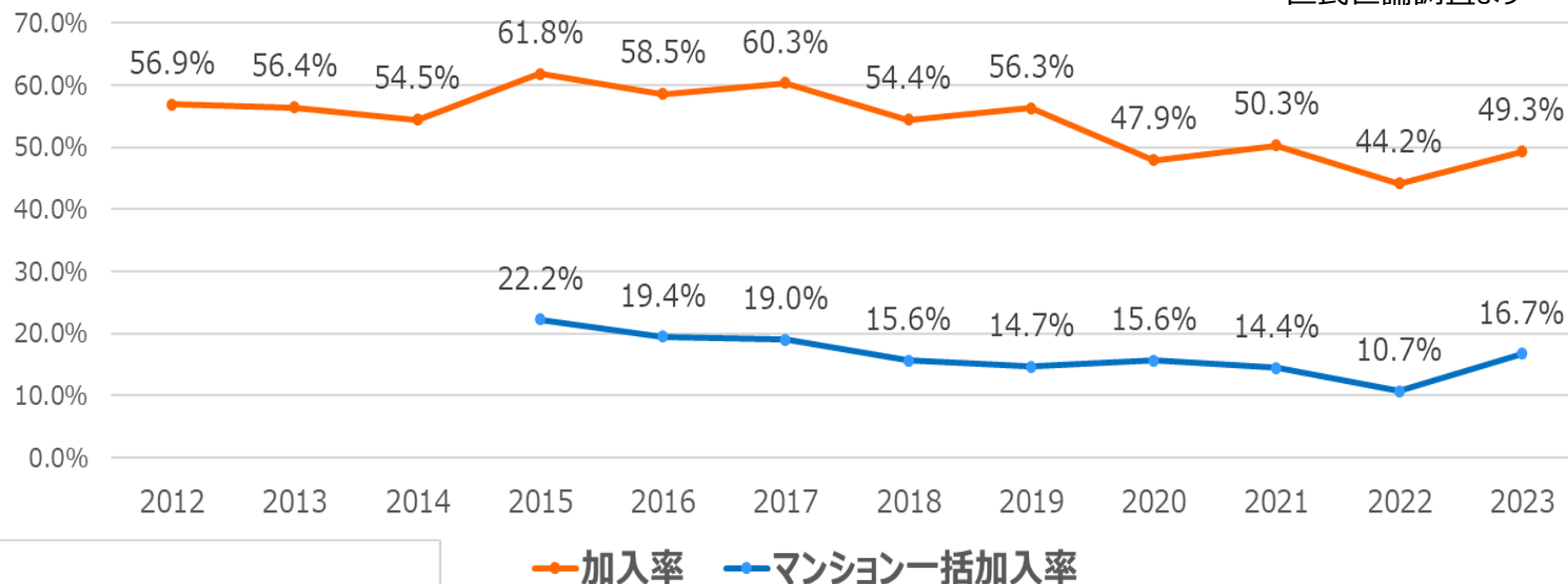
町会の加入率

傾向 減少傾向が続く

- 千代田区の町会数は107。
令和5年区民世論調査では49.3%。
うちマンション一括が16.7%。
- 新宿区の町会等加入率は44.1%
(令和5年8月) 本区とほぼ同水準。
- 令和2年の総務省アンケートでは、自治会等の加入率を世帯単位で把握している全国600市区町村における加入率の平均(単純平均)は71.7%。

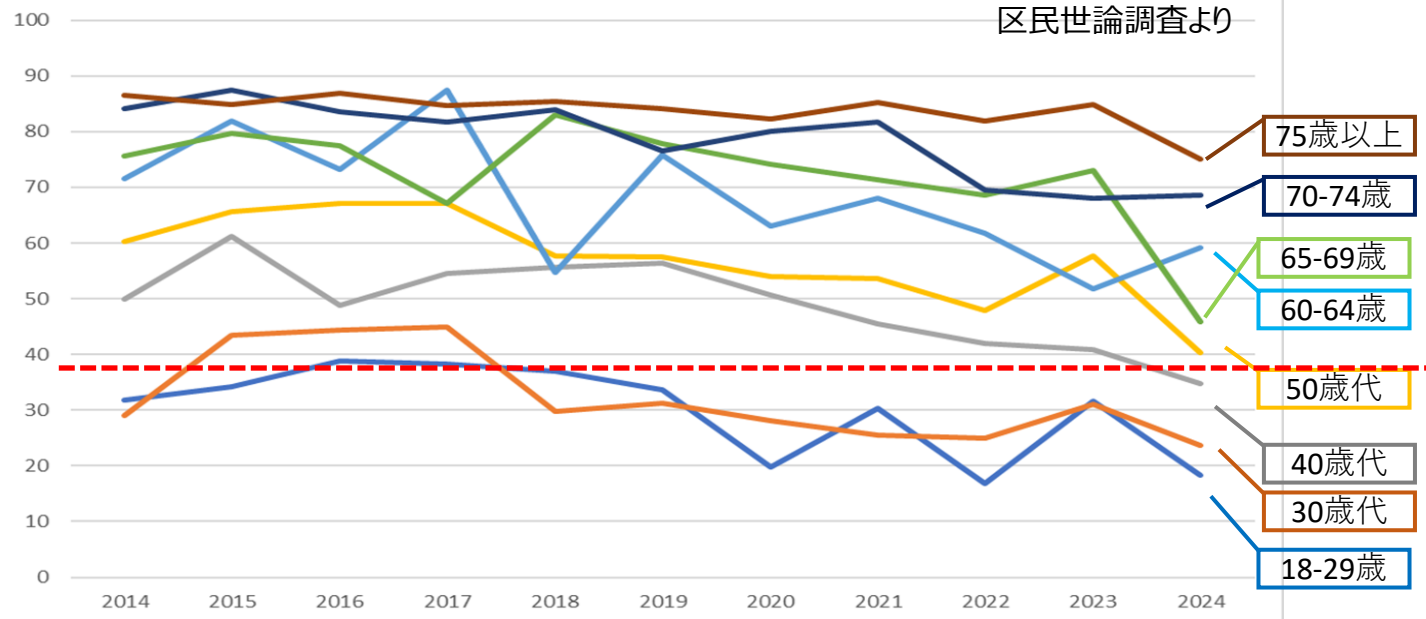
千代田区における町会加入率の推移

区民世論調査より



年代別町会加入率 (%)

区民世論調査より



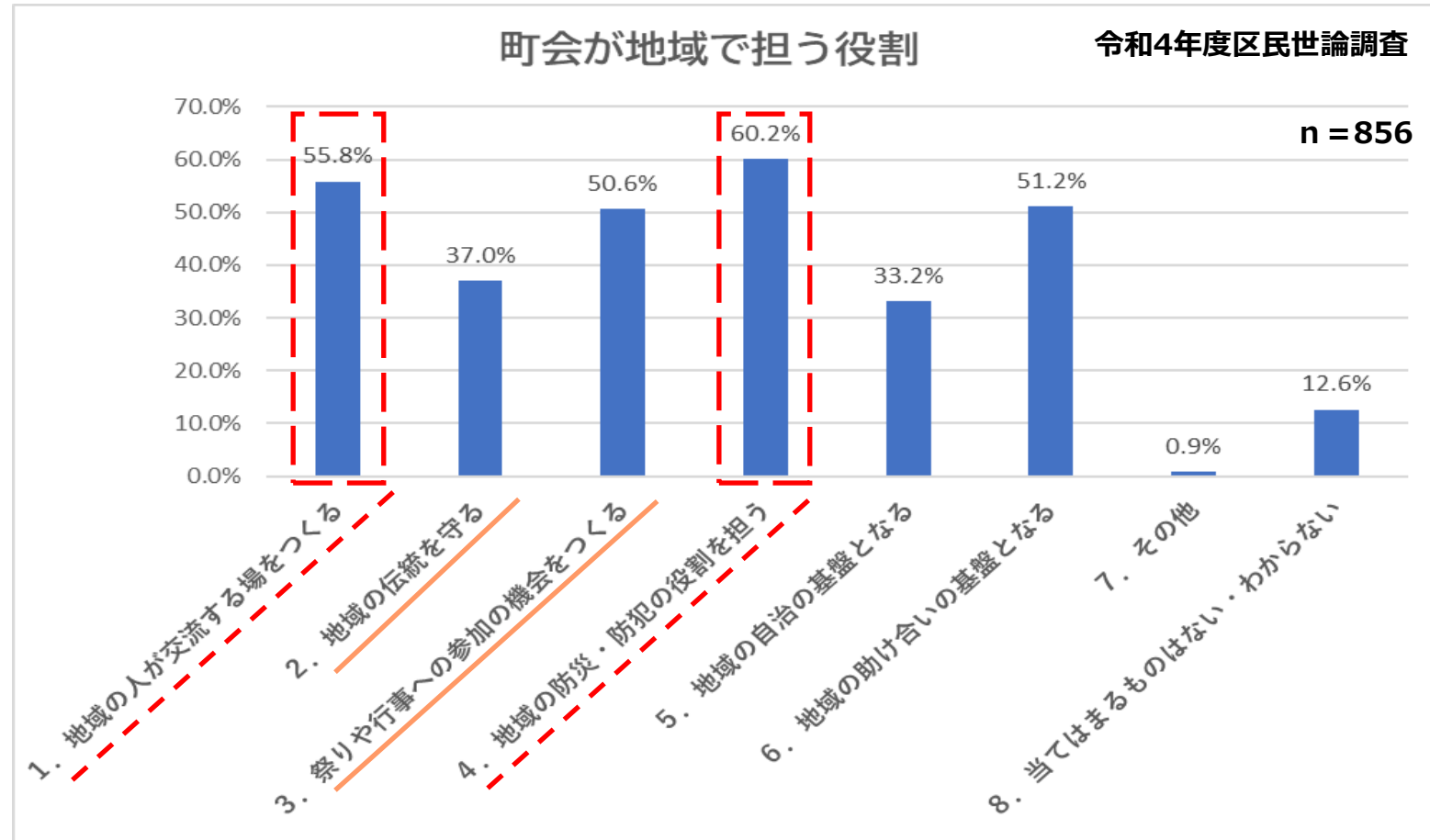
年代別 40歳代以下の加入率が低く

- 年代が高いほど加入率が高く、町会員構成の高年齢化につながっている。
- 若年層の参加が少ないことの現れであり、町会役員の高齢化が進むとともに、役員・祭礼やイベント、防犯、環境など活動の担い手の不足にもつながっている。

町会が地域で担う役割

イメージ 地域の防災・防犯

町会が地域で担う役割は、「地域の防災・防犯」が60.2%でトップ。次に「地域の人が交流する場をつくる」が55.8%と続く。また、「祭りや行事の参加機会を作る」（50.6%）、「地域の伝統を守る」（37.0%）といったイメージも一定以上ある。祭礼行事は、地域の伝統や文化を次世代に伝える役割を果たし、地域のアイデンティティを強化。祭礼文化の継承は、地域コミュニティの持続可能性の確保・向上のためにも重要



町会加入者

活動の参加状況

情報は見るものの、活動への参加が少ない

「行事やお祭りには参加したことがある」「町会の情報は見る」けれど・・・、活動への参加につながっていない

■ 世論調査（令和4年）で、町会加入者の活動への参加状況を尋ねたところ・・・

⇒「町会行事やお祭りに参加したことはあるが、日常の活動には参加していない」が全体の34.5%となっている。

⇒「町会の情報は見るが活動には参加していない」が全体では32.3%となっている。

活動で期待すること

「人間関係は軽く」

全体的には「**人間関係が重くない方がよい**」としつつ、「**地域内の交流の活性化**」が期待されている。

単身者は「**HPやSNSでの情報が必要**」と感じ、「**地域内の交流の活性化**」を期待する。

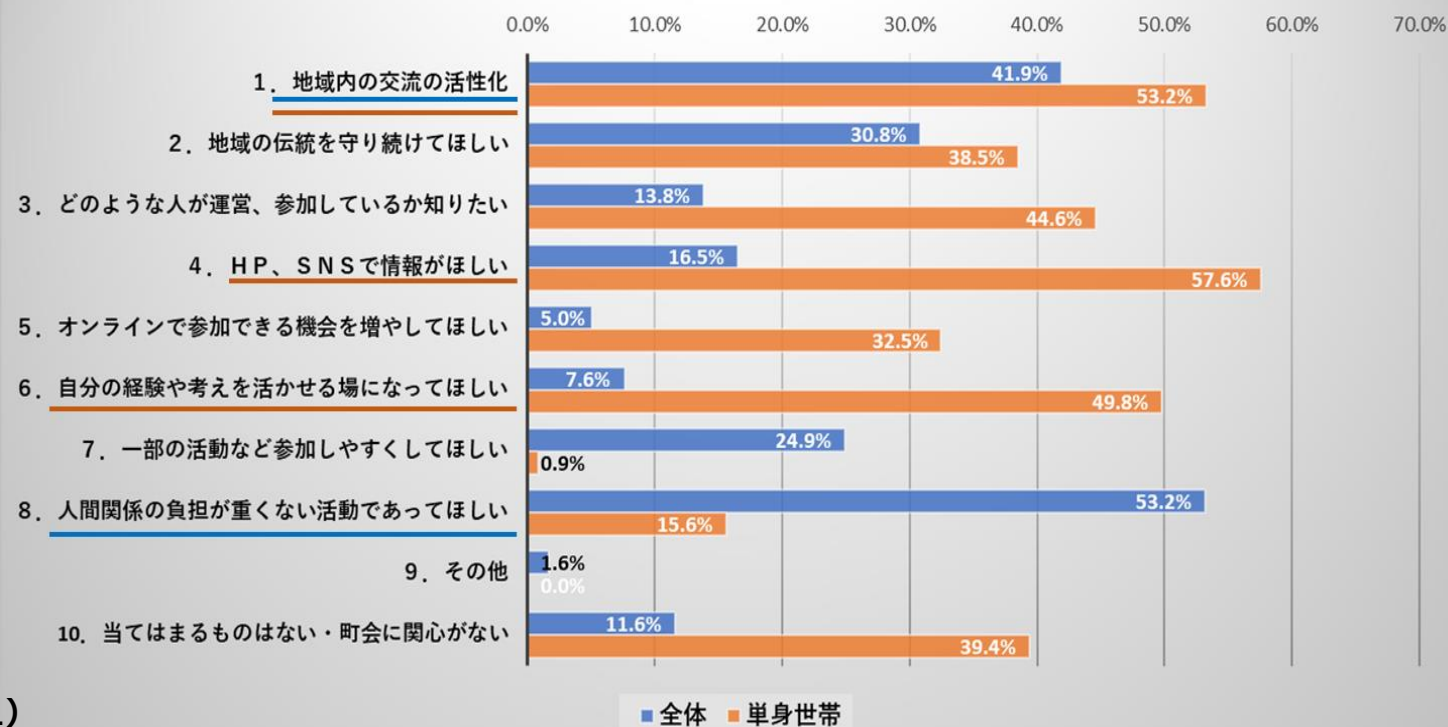
また、「**自分の経験や考えを活かせる場であってほしい**」との思いもある。

令和4年度区民世論調査

■ 全 体 (N=856)

■ (うち)単身者 (N=231)

町会活動で期待すること



町会を取り巻く現状や課題をまとめると・・・

町会の加入率

- 減少傾向。年代が高いほど加入率が高く、町会員構成の高年齢化につながっている。
- 40歳代以下の減少が顕著。若年層の参加が少ないことの現れであり、町会役員の高齢化の進展、役員・祭礼やイベント、防犯、環境など活動の担い手不足にもつながる。

「町会が担う役割」のイメージ

- 「地域の防犯・防災を担い」、「地域の人が交流する場をつくる」。
- 「祭りや行事の参加機会を作る」、「地域の伝統を守る」といったイメージも一定以上

町会加入者の活動状況

- 「行事やお祭りには参加したことがある」「町会の情報は見る」けれど..... 活動への参加につなげてない

町会活動で期待すること

- 全体的には「人間関係が重くない方がよい」としつつ、「地域内の交流の活性化」が期待されている。
- 単身者は「HPやSNSでの情報が必要」と感じ、「地域内の交流の活性化」を期待。「自分の経験や考えを活かせる場であってほしい」との思いもある。

これまでの経緯（町会支援に関する最近の状況）

令和 5 年 1 0 月 2 6 日	令和5年度第2回区民集会運営協議会 テーマは「これからの地域コミュニティの形成と継承」に
令和 6 年 1 月 3 0 日	令和5年度第3回区民集会運営協議会 「これからの地域コミュニティの形成と継承」に関する講義 地域コミュニティに関する区の実践や事例研究 ・千代田区のコミュニティ支援について ・エリアマネジメントの取り組み ・これからの地域コミュニティの形成と継承に必要なこと
令和 6 年 4 月	連合町会長協議会にて町会アンケート実施
令和 6 年 7 月 3 1 日	令和6年度第1回区民集会運営協議会
令和 7 年 1 月 2 3 日	企画総務委員会 陳情審査 送付6-46『区内地域格差・各町会の特性を思索した「地域コミュニティの形成と継承」を思考する特別委員会の設置を求める陳情』（令和6年11月）

区の取組《令和6・7年度》

研修会のリニューアル・意見交換会の実施

これまでの生活密着型や防災などをテーマとした講義・講演形式のものから、今後の町会運営・活動の参考となるものをテーマに、トークセッションや意見交換する形式に。

全町会長研修会

「町会とエリアマネジメントの新たな取組の可能性」をテーマに、ファシリテーターに大学准教授、近隣区の連合町会長と事業者を招き、エリアマネジメントを活用したまちづくりの事例を紹介

全婦人・女性部長研修会

移動式遊び場など子どもの楽しめるストリートイベントなどを展開する星野氏を招き、古くからある地域コミュニティと住民をつなげるイベントなどの事例を紹介

青年部の方との意見交換会

これまで話しを伺う機会がなかった青年部世代の方に集まっていただき、日頃の町会運営やイベントでの工夫や悩みなどの生の声を聴くことや地域を超えた交流の促進と相互の情報交換・共有の場となることを目的として実施

区の取組《令和6・7年度》

情報発信

区WEBサイト

町会に関する情報を整理・充実

補助金

コミュニティ活動事業助成に「酷暑対策」
を追加拡充

これまでの補助金事業の執行状況や他自治
体の状況等を調査

各種アンケート調査

全町会長、婦人・女性部長、青年部の方
区政モニター



千代田区HP 「暮らし・手続き」の「地域活動・コミュニティ」
令和7年3月改定

区取組《これから》

情報発信

区WEBサイトの町会に関する情報のさらなる充実
町会加入促進や町会運営に関するマニュアル等の作成
SNSなどの情報プラットフォームの調査研究

祭礼文化の継承

祭礼文化とその維持継承について調査

町会支援プログラムの構築・実行

支援を必要とする町会のニーズに合わせたオーダーメイドのサポートの構築

町会支援プログラム（イメージ：他自治体での事例）

町会運営の課題や困りごとの解決をお手伝い

支援事業者が町会とともに課題を分析し、課題に応じた複合プログラムで、課題解決に向けた町会の取組を伴走支援

支援の柱および主なメニュー

加入促進

- ・ 加入に関するニーズ把握
- ・ マンションへのアプローチ方法
- ・ 未加入者との関係づくり など

活動・行事

- ・ ニーズに対応したイベント
- ・ 参加者との関係づくり
- ・ 若者の町会への参加企画 など

情報発信

- ・ 町会活動の紹介
- ・ 広報紙づくり
- ・ SNSの活用 など

組織運営・担い手づくり

- ・ 事業の見直し
- ・ 対面以外の会費集金方法の導入
- ・ 町会間の連携手法の提案 など

区民集会運営協議会設置要綱

(昭和 60 年 5 月 15 日 議長決裁)

改正 平成 11 年 7 月 5 日 議長決裁

改正 平成 22 年 7 月 14 日 議長決裁

改正 平成 23 年 12 月 8 日 議長決裁

改正 平成 25 年 5 月 30 日 議長決裁

改正 平成 25 年 10 月 21 日 議長決裁

(趣旨)

第 1 条 千代田区民を取り巻く環境は、コミュニティ等の地域活力の低下、都市化による住環境の悪化、少子・高齢化の進展等、一段と厳しさを増している。特に、経済の低成長化の中で区民生活を圧迫している地域経済は、深刻化かつ長期化している。

また、「基礎的地方公共団体」として、地方分権の潮流から一段と自主性・自立性が求められている。

このような状況を踏まえたとき、住民自らが歴史と伝統に培われた千代田区を守り、発展させていくため、千代田区の抱える諸課題に対して、連帯感をもって、主体的に取り組むことが求められている。

このため、住民が一体となって論議する場の必要性が認識され、昭和 58 年から「区民集会」を開催し大きな成果を収めてきたところである。

さらに、平成 8 年からはこの「区民集会」が中心となり、都心区が一体となった共同での「区民大会」も開催している。

この「区民集会」を将来にわたってさらに充実発展させていくため、区民集会の企画及び運営等に関する協議の場として「区民集会運営協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議事項)

第 2 条 協議会の協議事項は次のとおりとする。

- (1) 区民集会の企画及び運営に関する事項
- (2) 区民集会に対する関係団体との連絡調整に関する事項

(構成)

第 3 条 協議会は、連合町会長、区議会議長、副議長、議会運営委員会委員により構成する。

(委員の委嘱)

第 4 条 協議会の委員は区議会議長が委嘱する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、区議会議長が委嘱した日から、第3条に定める各職にある期間までとする。

(座長及び副座長)

第6条 協議会に座長及び副座長を置き、それぞれ次の各号に掲げる職にある者をもってあてる。

(1) 座長 区議会議長

(2) 副座長 千代田区連合町会長協議会会長

2 座長は協議会の運営を司る。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときは、その職務を代理する。

(招集)

第7条 協議会は区議会議長が招集する。

(関係者の出席)

第8条 区議会議長は、必要に応じて協議会に有識者等関係者の出席を求めることができる。

(会議の公開等)

第9条 座長は会議に諮り、会議の公開、非公開を決定する。

(事務局)

第10条 協議会の事務局は、区議会事務局に置く。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営やその他必要な事項は、区議会議長が定める。

附則

この要綱は、昭和60年5月15日から施行する。

附則(平成11年7月5日11千議発第103号)

この要綱は、平成11年7月5日から施行する。

附則(平成22年7月14日22千区議会発第152号)

この要綱は、平成22年7月14日から施行する。

附則(平成23年12月8日23千区議会発第233号)

この要綱は、平成23年12月8日から施行する。

附則(平成25年5月30日25千区議会発第60号)

この要綱は、平成25年5月30日から施行する。

附則(平成25年10月21日25千区議会発第168号)

この要綱は、平成25年10月22日から施行する。